



2023.9.1 No.96

JA静岡厚生連 清水厚生病院 医療協力部門

## 子宮頸がんワクチンとは

子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス(HPV)の感染を防ぐ予防接種です。日本では現在3種類のワクチンがあります。予防する型の種類、接種する年齢など様々な観点から種類を選ぶことができ、2回もしくは3回の接種が必要となります。

2013年4月から定期接種化されました。接種後、体の不調を訴える方がでたため2013年6月から積極的推奨を控えていましたが、2022年4月から再度接種の有効性が上回ることから再開されました。

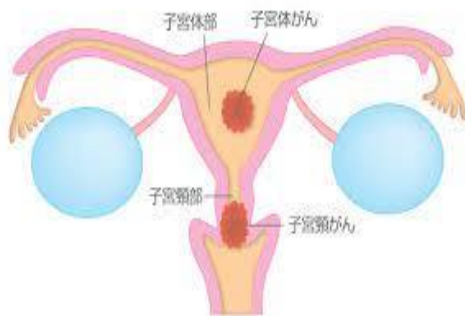


### 対象者

定期接種: 小学6年生～高校1年生相当の女子児童

キャッチアップ制度対象者: H9年度生まれ～H18年度生まれ、かつ過去にHPVワクチンを3回受けていない方(積極的推奨を控えていた期間に定期接種の対象であった方々の中にも、対象年齢を超えて公費での接種の機会が提供されています)

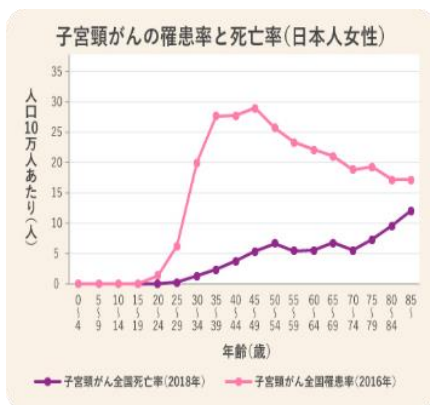
## 子宮頸がんとは



子宮の入り口にできるがんのことです。主にウイルスの感染が原因です。子宮頸がんのほとんどはヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスの感染が原因です。

感染原因は主に性交渉です。コンドームでは予防しきれません。外陰部や肛門にも潜むウイルスのため、**ワクチンと検診の両方での予防**が推奨されています。また、HPVは女性だけでなく男性も感染します。

発症のピークが女性の出産年齢ともかぶる



国立がん研究センター。がん情報サービス「がん登録・統計」より作図(2020年6月確認)

ためマザーキラーともよばれています。子宮頸がんは通常、初期にはほとんど自覚症状がありません。進行するに従って生理以外の出血(不正出血)、性行為の際に出血などが現れます。自覚症状が出たときには、すでに進行していた、ということもあります。女性の場合は2年の一度の子宮頸がんの検診が推奨されています。

## 治療法

子宮頸がんのステージにあわせて、手術、放射線療法、抗がん剤(化学療法)のいずれか、もしくは複数を組み合わせて行います。がんになる前の異常な細胞が増えた状態を高度異形成や上皮内がんといい、この段階で治療することがとても重要です。早期発見のためにも検診を受ける必要があります。より早い段階で見つけて治療すれば、妊娠できる可能性を残せるだけでなく、手術による後遺症を減らすことが



できます。がんが進行した場合に行われる手術は、術後の後遺症も大きくなるため、より早い段階での発見が重要です。



## 男性は打てないの？

日本で使用されるワクチンの中で男性にも使用できる種類もあります。男性の場合は肛門がんや尖圭コンジローマの予防をする効果があるとされています。ただ男性に接種する場合は自費になってしまいます。近年、自治体によっては独自に男子児童に助成制度を設けているところもありニュースになっています。今後、男子児童への定期接種の導入にも期待が高まります。